

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	府中保育園
期間	令和 6年 8月～ 10月

1. 活動のテーマ

<テーマ>

分園1歳児：おままごと

<テーマの設定理由>

おままごと遊びが好きでじっくりと遊んでいるのもっと遊びを広げ、子ども達同士のやり取りを深め、言葉が増えるようにしていきたいと思った。

2. 活動スケジュール

- ・高月齢児と中・低月齢児にグループ分けをしておままごとを行う。
- ・子どもたちの様子を見ながら活動を行う。
- ・お弁当箱に物を詰める事に興味を示していた為、数を揃えてピクニックごっこを行う。
- ・人形を遊びの中に追加し、お世話を楽しめるようにする。
- ・人形のお世話を楽しんでいた為、お世話とやり取りを絡められるようにお医者さんごっこを行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

食べ物、フライパン等の道具、スプーン（購入）、お弁当箱、シート、ちゃぶ台等のテーブル、人形、布団、聴診器、手作りの物（体温計、絆創膏、薬）注射器（ブロックで作成）
店員役の帽子、エプロン、メニュー表 それぞれの遊びをする時にコーナー分けを行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・高月齢児と中・低月齢児に分かれておままごと遊びを行った。
- ・子どもたちの様子を見ながら活動を行った。
- ・お弁当箱を人数分用意し、お弁当作りやピクニックごっこを行う。
- ・人形遊びと料理それぞれ好きな遊びをじっくりと楽しめるようコーナー作りをして環境を整えた。
- ・お医者さんごっこを行い、初めは子どもたちや人形を保育者に診察してもらいやり取りを楽しみ、興味のある子を医者役に誘い、保育者が仲立ちとなりながらやり取りを行った。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

○保育者が「飲み物が欲しいな」と一人の子と会話をしていると周りの子どもも話を聞いて保育者の周りに集まって 飲み物をコップについでいた。高月齢児のグループは一人の子がやっている事に興味を示し、友だちの真似をして遊んでいる姿があった。他にも一人の子が食べ物をお皿いっぱい集めると他の子どもも同じようにお皿に食べ物を盛って同じ事をして楽しんでた。



○中・低月齢児は個々に食べ物を集め、保育者と一対一の関わりを楽しんでいた。周りの子どもの様子にはあまり興味を示さずに、包丁でじっくりと食べ物を切ったり保育者に集めた食べ物を渡したりと個人の好きな遊びを楽しんでいた。



○人形を提供した時には、気に入った人形を選び、お世話を楽しんでいた。布団を用意すると寝かしつけをしたり、飲み物や 集めた食べ物をあげて楽しんでいた。気の合う事に関わりも見られたが、まだ個での遊びをじっくりと楽しむ子が多かった。全員で遊ぶ事で中・低月齢児の子が高月齢児の真似をして遊んでいた。



○お医者さんごっこを行うと興味を示し、保育者が医者役をすると並べていた椅子に座り順番待ちをしていた。保育者に聴診器を当ててもらったり熱を測ってもらい楽しんでいた。医者役をやりたいと言う子がおり、保育者が傍に付きながらやってみると保育者が言った事を復唱したり、聴診器を友だちや人形にあてたり「お大事に」と言って診察が終わった子を送り出していた。



5. クラスで話し合い、良かったこと、次につなげたいこと、課題

- ・初めに高月齢、中・低月齢児と分けて遊んだ事で遊び方の違いが分かったり、少人数で遊ぶ事で保育者も一人ひとりとじっくり関わる事が出来た。
- ・全員で遊んだ時には高月齢児がやっている事の中・低月齢児も興味を示し、真似をする姿があり、大人数、少人数で遊ぶ良さがそれぞれある事が分かった。
- ・大人がやり取りの仕方を伝える事で子どもたち同士のやり取りが少しずつ増えてきた。
- ・病院遊び等保育者や友だちと関わりを持った遊びを繰り返し行い、保育者が関わり方を伝えていく事で言葉を吸収して語彙が増えてきた。

- ・子どもたちだけでの言葉を交えた関わりが少ない為、保育者の関わりや環境作りの仕方が課題となる。
- ・更に関わり、言葉が増えるようにするにはどんな関わりが良いか、必要な教材はあるか話し合い、朝の会の話の時に絵カードを使い、話している内容が伝わりやすいようにしたり、顔写真を使ったりしないといけない案が出た。

6. 次の活動

<活動内容、新たに準備した素材・設定等>

- ・活動内容：絵カード、子どもの写真を使ったいないないばぁレストランごっこ
- ・準備した素材：絵カード、スケッチブックに子どもたちの写真を貼り、いないないばぁの仕掛けを作る。
レストランごっこ（メニュー表、帽子）
- ・設定環境：朝の会の時に絵カードを使い、天気や活動内容を話す。
保育の中でいないないばぁを行う。
レストランごっこはお店のカウンター、食べるコーナーを分けた。

<活動中の子どもの姿等>

- ・クラスで取り組みたい内容を考え、絵カード、いないないばぁをする事にした。
研修発表では職員から様々なアドバイスを頂き、実物の写真を撮り、メニューを作り、レストランごっこを取り入れる事にした。

- 朝の会で絵カードを取り入れると興味を持って話を聞いていた。
天気の質問をすると「おひさま」「雨ざーざー」と答えていた。
絵カードを使用する事で保育者が話している内容を理解し、話に参加している様子があった。



- レストランごっこでは、メニューの写真をじっくりと見て指を指して注文する子が多かった。中には自ら「おにぎり」と言って言葉で注文をする子もいた。指差して注文する子には保育者がメニューを指差しながらメニュー名を伝え、「なににしますか？」と聞き、言葉を引き出せるようにしていった。子ども達から店員役を「やりたい」という声があり、保育者が傍に付きながら行くと友だちが注文した物を自分で探して渡していた。回数を重ねるごとに、自ら「いらっしゃいませ、どれにしますか？」と言うようになり「～ください」「どうぞ」「またきてね」と友だちとやり取りを楽しんでいた。



7. 振り返り

<本活動によって得た保育者の気づき>

- ・普段のおままごと遊びの中に様々な要素を加える事で日常生活を反映させながら保育者や友だちと関わりを段々と深めて遊べるようになったと感じた。
- ・成長発達に繋げる為にはどうしたら良いかをクラスで話し合い、遊びを充実させる事の大切さに気付いた。又、環境設定を充実させる事によって遊びが広がり、子ども同士の関わりも増えたように感じた。
- ・様々な玩具を加える中でスプーンの使い方が上持ちではなく正しい持ち方になってきている事に気が付き、給食の時にも進級に向けて本園と同じ物を用意し、正しい持ち方を意識していきたいと感じた。
- ・1歳児でごっこ遊びがここまで発展する事に驚いた。1歳児だから難しいと思いつまらずに、子どもの姿を見て様々な遊びを提供出来ると良いと感じた。